

スポーツ推進委員の活動

スポーツ推進委員は、横浜市長から委嘱される非常勤職員であり、地域の人たちと連帯し、委員相互の協力のもと、地域に根ざしたスポーツやレクリエーションの進行、事業の企画・立案・実施並びに普及活動等、地域の多様化に即した事業を展開している。中川地区スポーツ推進委員は総勢21名で構成しており会長・副会長を中心に顧問（スポ進OB）さわやか担当と協力し合いながら全員で活動中である。

<平成30年度夏までの主な活動>

- 4月 子供の日の集い（もちつき他）
- 7月 さわやかスポーツ実技研修
- AED応急措置の研修会
- 8月 子供水泳教室（三地区合同）

中川地区での活動の他、県・市・泉区の行事、子供の遊び場（ドッジボールを中心にサッカー教室・工作）等多くの行事で活動中。今年度は中川地区独自の活動としてグラウンドゴルフ大会等のスポーツ大会を開催予定だ。是非、多くの方の参加をお願いしたい。今後も区・体育協会・泉スポーツセンターの協力を得て、スポーツの振興、啓発を通じ少しでも地域の皆様に貢献出来るよう活動していくつもりである。



<編集後記> 中川連合町内会＝中川地区経営委員会は認知症の人や家族との触れ合い、また子供を健やかに育てることを地域課題として取り組んでいる。これには自治会町内会へ地域の方、全員が加入して取り組んでほしいものだ。災害や認知症リスクがあなたを避けて過ぎていくわけではないから、共に関わり合いましょう（小泉）

第19回中川ふれあいまつり

平成30年11月11日（日）開催

みんなで、みんなのふるさとを！



顔の見える関係作り

里山夢プロジェクトは、「みんなで、みんなのふるさとを！」をキャッチフレーズに、野菜作りを通じて、地域の多くの皆さんの「顔の見える関係づくり」を目指している。地域の皆さん同士の「顔の見える関係」作りができていたら、これ以上心強い事はない。このことは東日本大震災や、熊本地震でも証明されている。いろいろな場所で、より多くの人と知り合えることは、自身はもとより、地域にとっても大きな「地域力」と成り、住みよい地域の醸成につながる。（場所：けいあいの郷緑園の前の畑）



毎週火曜日、畑に来れば・・・

里山夢プロジェクトは、毎週火曜日、9時30分から午前中、作業をやっている。しかし作業が苦手な人もいる。高齢者、体が不自由な人、小さなお子さんがいる人など誰でも参加可能だ。畑に来れば誰かに会える。畑に来れば話ができる。畑に来れば野菜が、花が、自然が見える！何も作業ができなくてもいい。事前の申し込みも不要。気の向いたときに、ふらっとお出かけ大歓迎。そして多くの「顔の見える関係」を作ろう。



<発行責任者> 中川連合町内会 小泉正彦

横浜市泉区岡津町2085 TEL/FAX 045-812-1957

メールアドレス：nakagawa_rengou@yahoo.co.jp

中川の風

中川連合町内会広報誌

発行者 中川連合町内会広報委員会

発行責任者 小泉正彦

発行日 2018年4月20日

第2号

特集：地域で取り組む事業

安心で安全な街「中川」をつくる

防犯対策事業

犯罪の無い安全で安心して暮らせる泉区・中川であってほしい。それが皆の願いだ。子供や高齢者を狙った卑劣な犯罪や詐欺など平成14年をピークに多発した。「自分のことは自分で守る」「自分達の街は自分で守る」犯罪に立ち向かっていく活動が、平成15年7月弥生台自治会自主防犯パトロール44名でスタートした。犯罪の多発で悩んでいた会員の「パトロールをやろう」の一言でまとまり活動に入った。翌年の平成16年には岡津新町「りんどうの会」が声掛け、挨拶を主に犯罪の無い明るい街づくりボランティア活動を始めた。その後、競うように、中川地区全体で防犯パトロールが始まった。平成16年7月中川地区防犯決起大会を実施、大会宣言を行い、現在まで粛々と活動している。犯罪防止の大きな力は顔見知りになり街中で挨拶を交わし合い、近所との絆を深めることが何よりである。

<青少年の見守り事業も>

平成20年6月には、青少年見守り、声掛け運動を立ち上げ、「青少年育成支援見守り大会」を開催し、中学生の標語看板を各地に設置し、見守り活動

を推進してきた。このような活動に対し、平成23年9月に財団法人全国防犯協会連絡会と、警察庁より「平成23年度全国安全運動中央大会」で、功労ボランティア団体「社会安全貢献賞」を受賞した。平成29年10月には、「全国功労団体賞」を同大会で受賞、団体では最高の賞で県下唯一の受賞、住民総ぐるみで取り組んだ積極的な地域防犯活動が評価された。中川連合町内会では防犯活動の一環で、防犯カメラの設置を進めているが、一番の犯罪抑止力は、人々の顔の見える関係、近所の絆作りで、不審者を近づけない地域づくり、子供や高齢者の見守り活動だ。今後も事業活動に、ご理解とご協力をお願いしたいものである。



環境問題を楽しいイベントで啓発する 第6回神明台のつどい・見学会



平成30年3月24日第6回神明台のつどいを行った。新橋町から緑園池の谷にかかる神明台処分地にはスポーツ施設や広場などがあり、地域の憩いの場になっている。神明台を知ってもらい、ごみの発生抑制を考え、処分地に対する理解を深め、地域がお互いに交流でき、楽しく過ごせるイベントを開催した。少年野球チーム・少年サッカークラブの参加に加え、地域に新しいスポーツを根付かせる「タグラグビー教室」、隼人高校陸上競技部の指導のもと「かけっこ教室」が開かれ交流が大きく広がり、交流の目的と、ごみ抑制の啓発ができた。

今日できることが明日できなくなる不安

認知症の方や家族が地域で 安心して暮らし続ける街づくりに取り組む

地域には大きな能力・経験を持つ人たちがいる。認知症が始まった夫を連れて、認知症の方との触れ合いの場に行く人やサロンを仲間と作っている人、母親の介護をしてきた経験者、地域のいろいろなボランティアの方々が集結して認知症に優しい街づくりをするため、時間がかかったが認知症サポート連絡会を8年かけ立ち上げた。

これからも一步一步認知症の方や家族が地域で安心して暮らし続けるような街を作っていく活動をしていきたいと全員が考えている。社協・町内会、施設、行政の三本の矢の取り組みを活かしてきた。

地域における取り組み

はじめに・・・

中川連合町内会は、地域住民や諸団体が連携して地域の課題解決に向け、主体的に取り組むことにより、地域自治の推進と地域の発展・向上を図ることを目的に、平成20年9月27日（土）の定例会において中川地区経営委員会を設立しました。

そして、地域課題解決に向けて、「青少年保全育成のための諸活動」、「認知症にやさしい街づくり」をメインテーマとして、活動をしてきました。

認知症とは？

脳の器質的病変異によって
記憶を中心とした知的機能が徐々に低下し
日常生活の遂行に不具合を生じた状態
成人期以降の発症に対して用いられる

<ポイント>

一度獲得した（記憶）能力の消失
日常生活が営めない

記憶の帯が抜け落ちる

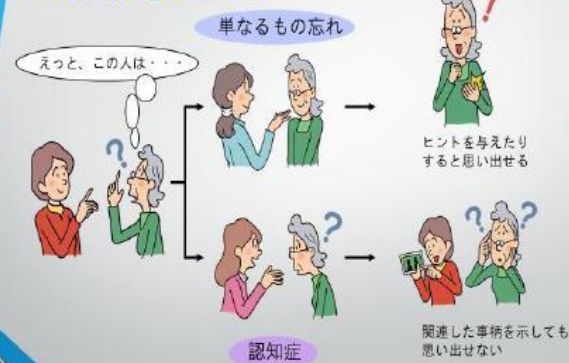
4大認知症

- ・アルツハイマー型認知症
- ・レビー小体型認知症（パーキンソンの脳幹で発見されたレビー小体が大脳皮質に見られる、ドーパミンに関係する）
- ・脳血管系認知症（脳梗塞、脳出血などの血管の異常）
感情、失禁、気分のむら、麻痺
- ・前頭葉側頭葉型認知症（一方的に話す、感情鈍化、異常行動、人を無視する、馬鹿にした態度をとるなど）

認知症と間違えやすい主な疾患

- ・老年性うつ
- ・老年性統合失調症
- ・軽度精神障害
- ・精神発達障害
- ・難聴、白内障
- ・PTSD（心理的なトラウマ）

人の名前が思い出せない



「認知症サポート連絡会」の経緯と活動

中川地区経営委員会・中川連合町内会、泉区役所、新橋地域ケアプラザと連携して活動を推進。

中川地区経営委員会、中川連合町内会、中川地区社会福祉協議会、泉区福祉保健センター、高齢・障害支援課、新橋地域ケアプラザの施設が、連携・協働の場として、『三本の矢の会』を設立。

- 平成22～24年 認知症サポートセミナー開催
「認知症の理解と地域の見守り」 八森 敦 先生
- 平成25年 サポートステップアップ講座
「認知症の家族の葛藤 体験談」 かまくらりんどうの会
- 平成26年 認知症予防セミナー
「認知症の予防について」 米山公啓 医師
「認知症予防の食養生①」 小林玲子 管理栄養士
- 平成27年11月 「認知症予防の食養生②腸内細菌との関係」 小林玲子 管理栄養士
- 平成28年7月17日「認知症サポートスキルアップ講座」を開催

認知症にやさしい街づくりの取り組みのなかで得たもの

- ・平成22～24年 認知症サポートセミナー開催
- ・市民キャラバンメイト213名
- ・平成25年 サポートステップアップ講座

- 〈セミナー参加者のアンケートより〉
- ・認知症について勉強したい
 - ・もっと多くの家族の思いを具体的に聞きたい
 - ・地域で困っている認知症の方に声をかけにくい
 - ・認知症の家族に声をかけるのはむずかしい

- ・認知症をオープンにできる地域づくり
- ・自分自身が認知症を予防することが大切
- ・隣人、地域で関わりを持てるような関係づくりが大切である
- ・もともと認知症について知識を持たないと認知症にふれることはできない

中川地区における認知症の取り組みについて (今まで)

◆これまでの認知症の取り組みについて

- ・高齢化で認知症にかかる人が急増している現状を把握した
- ・「認知症」の名前を知っていても、実態を知らないため、認知症の勉強会（セミナー）を実施した
- ・認知症は、まず予防が大切であるため、予防講座を開催した

中川地区における認知症の取り組みについて (現在)

<認知症サポートの仕組みづくり>

中川地区で設立した「認知症サポート連絡会」の中で認知症の見守りと対応のポイントを学んでいる。

<平成29年度の活動>

現在連絡会には、32名の方が登録し、地域の認知症対応グループホーム「アカシアの家」の協力を得て、認知症の方々との交流を始めた。認知症の方が困っていることを聴いて、できるサポートを考えていきたい。

認知症セミナーで学んだこと

- ①認知症の方の本人の不安や不快感などを解消するために、どう関わるか
- ②本人も家族も楽になる関わり方
- ③認知症と認知症の方の心を理解する方法

中川地区における認知症の取り組みについて (これから)

「認知症サポート連絡会」の活動を

活発化させる・連絡会に関わる人を増やす

- ①認知症のことをもっと学ぶ
- ②自分が認知症にならない予防法を学ぶ
- ③認知症の見守りポイントを学ぶ
- ④認知症と思われる方に出会った時の対応を学ぶ
など、研修会や勉強会を行い、地域力を結集する

地域交流の場「ライフサポート隊の活動」

里山プロジェクトの活動を触れ合いの場として活かしていく。

認知症に優しい街づくりは、認知症になっても安心で、地域が支える地域の仕組みづくりをすることに他ならない。高齢になれば誰もが認知症になるといわれている現在では早期診断、早期介入が必要で認知症の人やその家族や地域の人、専門家と相互に情報を共有し、お互いを、理解し合う認知症カフェの設立、運営を考えていかねばならないだろう。地域ケアプラザと協力して地域づくり、ボランティア活動の場を考えていく。

青少年指導員協議会の活動

26期（平成30年、平成31年度）新メンバーで地域の活動が始まった。中川連合では連合町内会と青少年指導員・スポーツ推進委員との共同行事が多数ある。青少年指導員の代表的な行事としては5月の、いずみ軽スポーツ大会（和泉遊水池）から翌年3月の青少年フェスティバル（泉公会堂）があり、その他、月1～2回程度行事等に参加している。青少年指導員の活動は青少年の健全育成を目的としている。県の青少年育成条例に基づき、自治会・町内会から推薦を受け、神奈川県知事・横浜市から委嘱され任期は2年である。男女を問わず様々な方が活動しており、区全体では女性が3割を占め、現役世代も6割だ。活動を通じて様々な方々と出会い、青少年と交流し、この出会いを大事にして青少年指導員である私達も一緒に楽しみながら活動している。